令和6年度
八戸市こどもモニター

フィードバック資料

令和７年３月３１日
八戸市 こども健康部 こども未来課

こどもモニターの皆さんからの意見などを整理し、その主なものについて、市の施策や計画などへの反映結果をまとめました。

アンケートに対して、さまざまな意見や提案を出してもらい、ありがとうございました。今後の市政に役立てていきたいと思います。

令和６年度アンケート実施状況

No.	実施期間	アンケート名	設問数	回答率	担当課	主な意見反映結果
1	６月28日～７月16日	八戸市美術館に関するアンケート	18問	97%	美術館	P3～6
2	８月19日～９月２日	手話についてのアンケート	９問	94%	障がい福祉課	P7～9
3	９月30日～10月15日	本を「読む」「書く」ことについてのアンケート	18問	86%	文化創造推進課	P10～12
4	10月18日～10月31日	はちのへ創生総合戦略の策定に係るアンケート	16問	89%	政策推進課	P13～15
5	11月15日～12月３日	令和６年度八戸市10大ニュース	２問	86%	広報統計課	P16
6	1月中旬	こどもまちなかIT部からのアンケート	11問	92%	こども未来課	P17～18

委嘱状交付式後に出された意見など

«方向性や計画などへの反映»

10代後半の転出超過は仕方がない。20～30代で、市外に出て色々と学んで力をつけた人を八戸に戻すことに力をいれた方が良いのでは。

→ 市外での経験を踏まえて、八戸に戻ってきてくれることは、市の将来にとってプラスになります。20～30代の転入に向けた取組として、子育て支援や雇用創出など、八戸に戻ってきたいと思えるような取組をさらに進めていきます。
（政策推進課）

美術館をもっと多くの人に知ってもらうために、ＰＲした方がいいと思う。

→ 印刷物(ポスター、チラシ)やホームページ、SNS(Facebook、X、Instagram、Youtube)などを活用した情報発信をしていますが、さらに力を入れて取り組んでいきます。
（美術館）

«新たな取組の開始»

八戸の城下町の豆知識は知らなかったので、面白かった。謎解きやスタンプラリーをすればみんなで楽しめるのでは。

→ 今年度、まちなかを歩きながら、中心街や八戸三社大祭などの情報を見て、知ってもらうことができるデジタルスタンプラリーを作り、令和７年度から始める予定です。
（観光課）

«取組の改善»

八戸圏域ファームステイ事業の対象が中学生になっているが、高校生も対象にしてほしい。

→ 令和７年度から高校生も対象に含めて実施する予定です。
（農業経営振興センター）

八戸市美術館に関するアンケート①　（美術館）

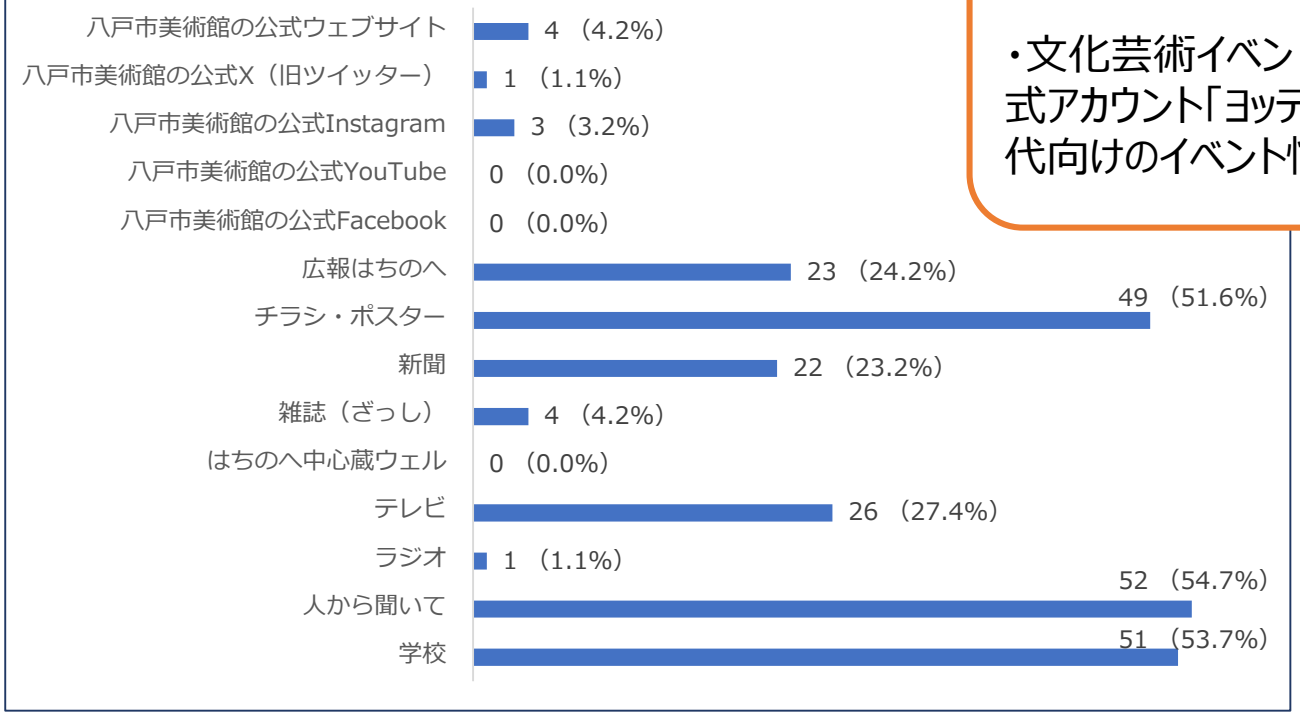
«取組の改善»

八戸市美術館を「知っている」、「聞いたことがある」と答えた95人に、美術館を何で知ったか聞きました。「人から聞いて」が最も多く52人（54.7%）でした。次いで「学校」が51人（53.7%）、「チラシ・ポスター」が49人（51.6%）となりました。八戸市美術館について周りの人から教えてもらうことが多いことがわかりました。

・「学校」や「チラシ・ポスター」から情報を得る機会が多いことが分かったため、これまで行ってきた学校へのチラシ・ポスター配付を継続するほか、学校への出張授業などの取組を進めます。

・公式ウェブサイトの定期的な情報更新、ＳＮＳの定期的な投稿、投稿内容の見直しやターゲット層を明確にするなど、情報発信の仕方を工夫します。

・文化芸術イベントを情報発信するＬＩＮＥ公式アカウント「ヨッテミッテ」などを活用して、若い世代向けのイベント情報を発信します。

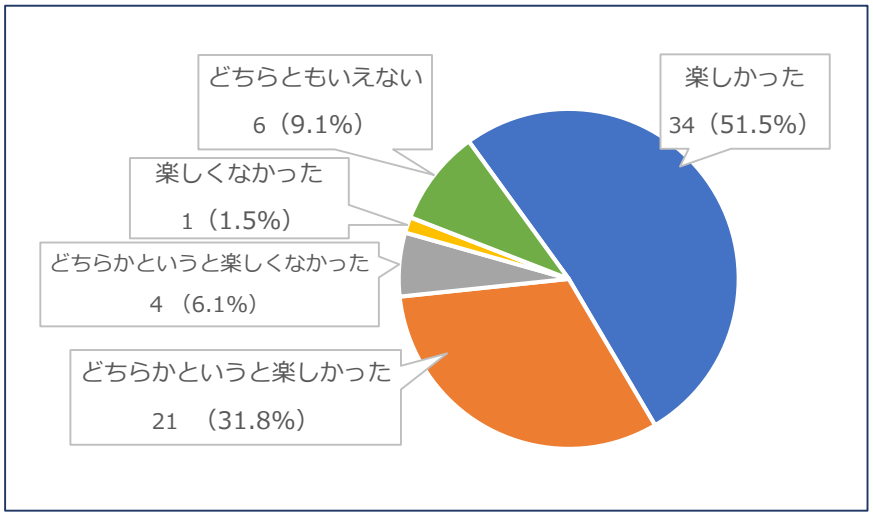


学校への出張授業のようす

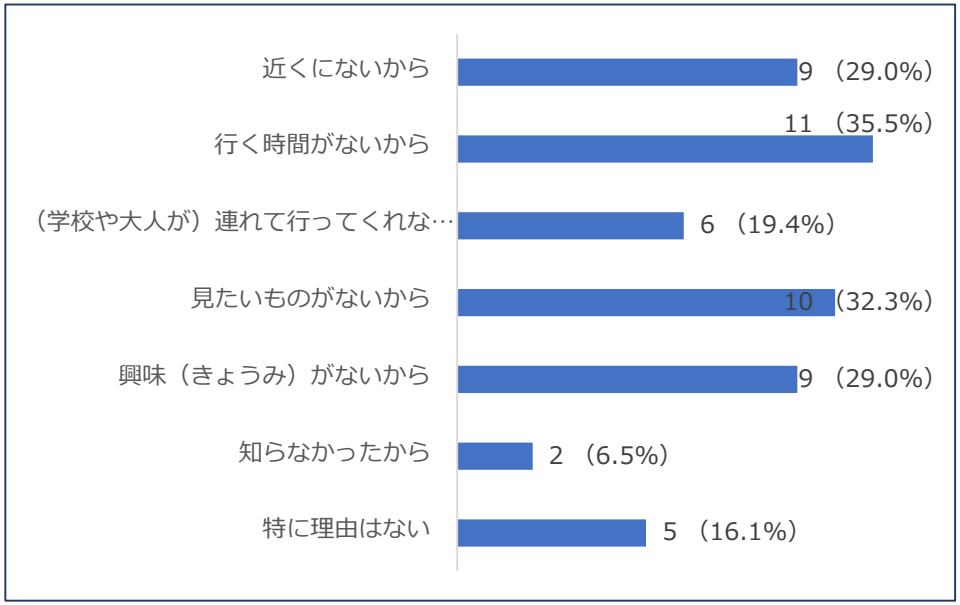
八戸市美術館に関するアンケート②　（美術館）

«取組の改善»

八戸市美術館に「行ったことがある」と答えた66人に、美術館は楽しかったですかと質問したところ、「楽しくなかった」「どちらかというと楽しくなかった」「どちらともいえない」が約15%ありました。理由として、「興味のある展示がなかったから」という声がありました。



八戸市美術館に行ったことがないと答えた31人に、行ったことがない理由を聞いたところ、「見たいものがないから」と答えた人が10人（32.3%）でした。



アートや美術館に興味や関心をもってもらえるよう、「見たい」と思えるようなテーマの展示や、「参加したい」と思えるようなプログラムを検討します。

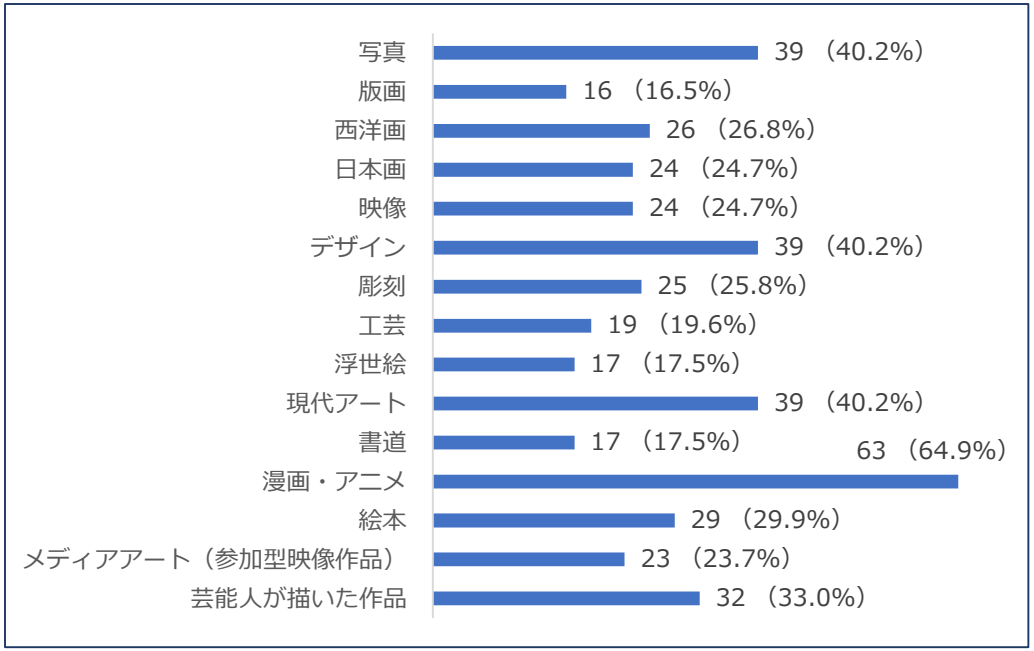
また、音楽、科学、スポーツなど、若い世代の方が興味を持つ分野とアートを融合させたイベントやワークショップなどを検討します。

八戸市美術館に関するアンケート③　（美術館）

«方向性や計画などへの反映»

展覧会について、見に行きたいと思うジャンルについて聞いたところ、「漫画・アニメ」が最も多く63人（64.9%）、次いで「写真」、「デザイン」、「現代アート」がそれぞれ 39 人（40.2%）でした。

また、館内やマエニワで、どんな展覧会やイベントがあれば行ってみたいか聞いたところ、具体例も含めてたくさんのご意見をいただきました。



当館では、幅広いジャンルの展示を行うことが、アートへの関心を高め、多くの方に楽しんでいただける美術館づくりにつながると考えています。展覧会やイベントを検討する会議において、いただいたご意見を参考に企画内容を検討しています。

«反映できなかったもの»

無料の駐車場があればもっと人が集まると思う。

当館は中心街にあり、周りに多くの民間の駐車場もあることから、今のところ駐車場の整備は難しいと考えています。

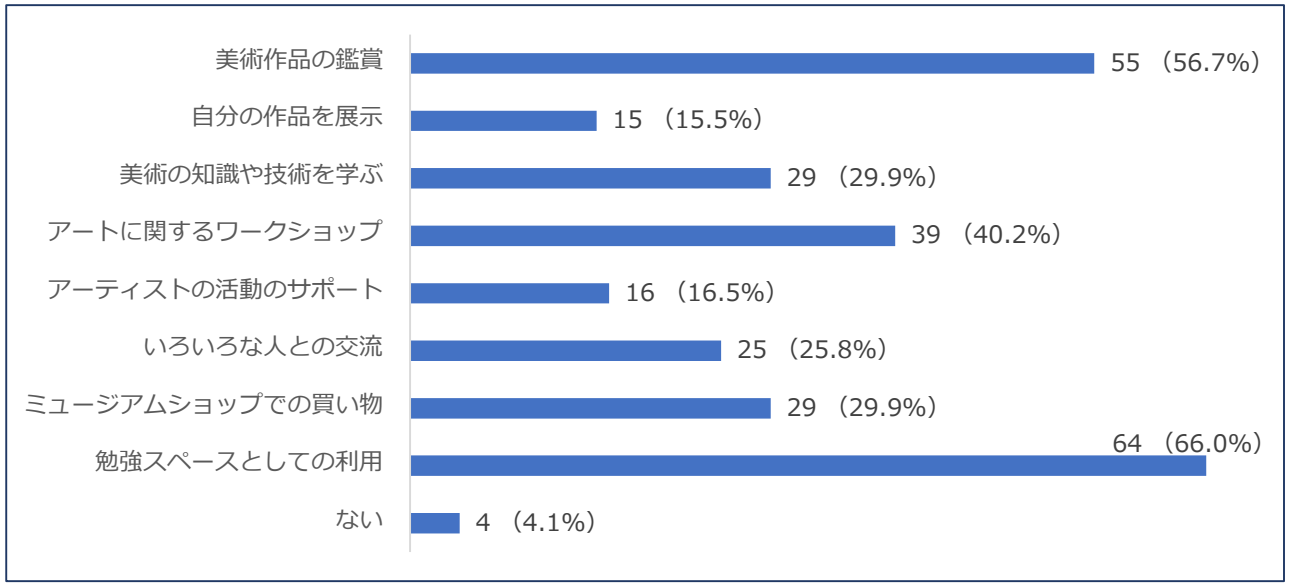
八戸市美術館に関するアンケート④　（美術館）

«方向性や計画などへの反映»

八戸市美術館でやってみたいことや、期待することを聞いたところ、「勉強スペースとしての利用」が64人（66.0%）で最も多く、次いで、「美術作品の鑑賞」が 55 人（56.7%）、「アートに関するワークショップ」と答えた人が 39 人 （40.2%）でした。

・「勉強スペースとして利用」のニーズが多く、中心街の居場所としての役割が求められていることが分かったため、ジャイアントルームを貸し出す場合でも、可能な限り一般利用できるスペースを確保します。

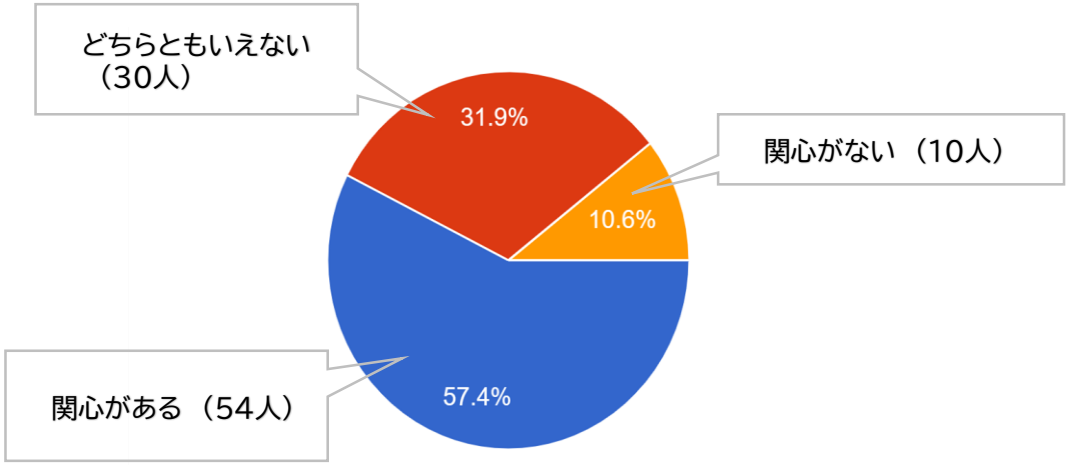
・若い世代が興味を持ち、気軽にアートに触れることができるよう、より魅力的な美術作品の展示やワークショップを企画します。



ワークショップのようす

手話についてのアンケート①　（障がい福祉課）

手話に関心があると答えた割合が57.4%と高く、もっと講座やイベントに参加したいという声も多くいただきました。



一方、自由意見では、

学生が参加できる講座やイベントが少ないという意見をいただきました。

«方向性や計画などへの反映»

八戸市で行っている「八戸市手話奉仕員・通訳者養成講座」は対象が16歳以上となっています。
そのため、小中学生も参加できる手話講座やイベントの開催について検討していきます。

手話を学べる場所についての情報が欲しい、という意見をいただきました。

«取組の改善»

手話の講座についての情報を市のHPへ掲載するなど、周知方法を検討していきます。

手話についてのアンケート②　（障がい福祉課）

«取組の改善»

手話言語条例制定５周年記念のイベントに参加したいと思わない、どちらでもないと回答した人にどんなイベントがあればいいと思うか、と質問したところ、学校におけるイベントや出前講座を望む声を多くいただきました。

平成31年度から希望する小中学校における手話出前講座を行っていますが、翌年から新型コロナウイルスの影響により開催できず、令和５年度の途中から再開したところです。
もっとこの事業を活用していただけるよう、案内方法やPR方法を検討していきます。

高校でも出前講座をやってほしいという意見をいただきました。

これまで小中学校へ送付していた手話出前講座の案内を令和７年度は高校へも送付することを検討しています。

小学校での手話出前講座のようす

中学校での手話出前講座のようす

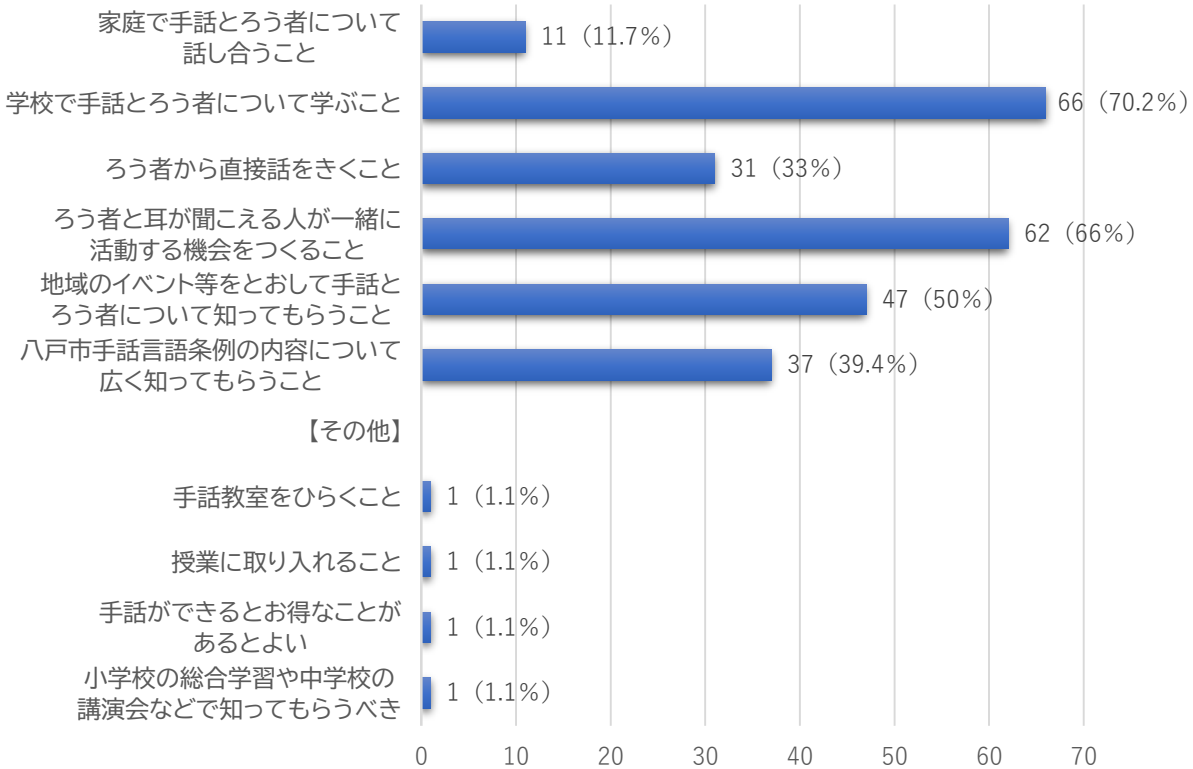
手話についてのアンケート③　（障がい福祉課）

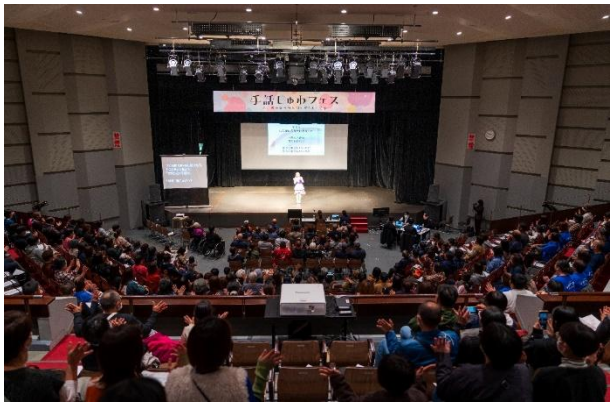
«取組の改善»

「八戸市手話言語条例」ができたことを知っていたか、の質問に対して、「知らなかった」が100%という結果でした。
また、「手話」をたくさんの人が使えるような八戸市になるためにはどのようなことが必要か、の質問に対して八戸市手話言語条例の内容について広く知ってもらうことが39.4%という結果でした。

令和６年度はアンケート実施後に、手話言語条例制定５周年記念イベントを開催しました。
こちらの結果を踏まえ、イベント会場で手話言語条例についての資料を配付したり、会場に設置するなどし、多くの方の目に触れるようにしました。
また、イベントについてのチラシを小中学生全員へ配布、高校へはチラシ、ポスターを配布しました。
今後も、多くのこどもたちに知っていただけるよう、周知方法を検討していきます。

【問】「手話」をたくさんの人が使えるような八戸市になるためにはどのようなことが必要か





「手話しゅわフェス」のようす

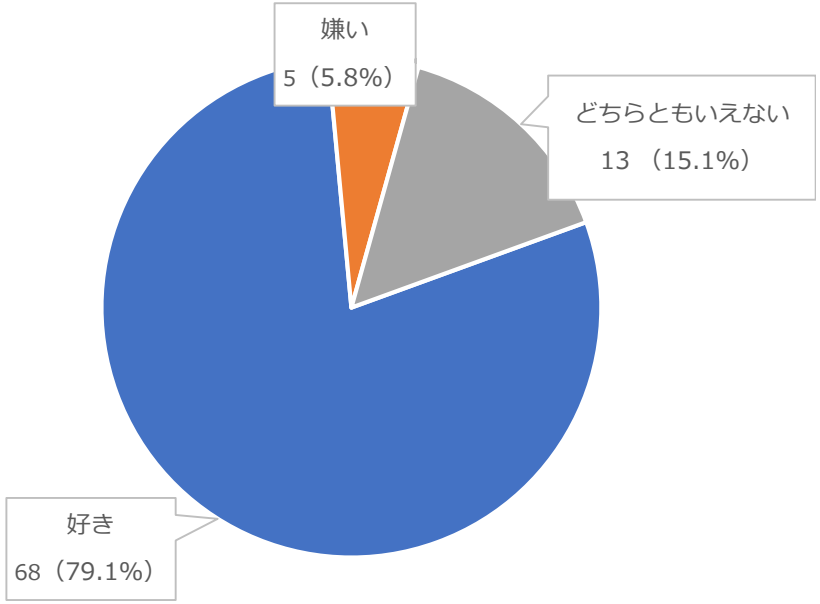
本を「読む」「書く」ことについてのアンケート①　（八戸市ブックセンター）

«方向性や計画などへの反映»

本を読むことは好きかについて聞いたところ、「好き」と答えた人が68人（79.1%）で、「嫌い」と答えた人が５人（5.8%）、「どちらともいえない」と答えた人が13人（15.1%）でした。
また、「嫌い」「どちらともいえない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「疲れるから」「興味がないから」「本の面白みが分からないから」「好きな本以外あまり興味を持たないから」「字を読むのが得意ではないから」などの意見をいただきました。

八戸ブックセンターは、一般的な書店や図書館と差別化を図り、館内全ての棚にテーマを設定し、そのテーマに沿った本を並べるなど特徴ある棚づくりを行っており、気になるテーマや１冊を見付けてもらい、イスやハンモックに座って、時間が許す限り自由に読んでいただきたいというコンセプトで運営しています。

今後も、学生を含む幅広い世代の方の知的好奇心を刺激するような本の選書、陳列を行うとともに、本や読書に興味を持ってもらえるような、さまざまなイベントを実施していきます。

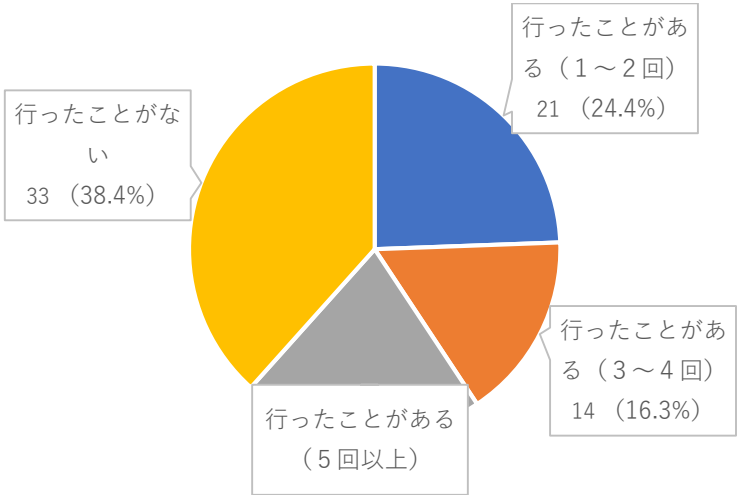


本を「読む」「書く」ことについてのアンケート②　（八戸市ブックセンター）

«新たな取組の開始»

今まで八戸ブックセンターに何回行ったことがあるかについて聞いたところ、「１～２回」が最も多く21人（24.4%）でした。次いで「５回以上」が18人（20.9%）「３～４回」が14人（16.3%）であった反面、行ったことがない人が33人（38.4%）という結果でした。

学生のみなさんは学校で情報を得る機会が多いため、各学校向けに八戸ブックセンターを紹介するリーフレットや、イベント開催時におけるチラシ・ポスターなどを配付、校内での掲示をしていただくことにより、周知に取り組んでいきます。



«方向性や計画などへの反映»

「書店」で本を買うと答えた人に、その理由や魅力を聞いたところ、多くの方から「直接その場で自分の目で確かめられるから」という意見をいただきました。

また、八戸ブックセンターに「行ったことがある」と答えた人に、当センターをどのように感じたか聞いたところ、多くの方から「雰囲気がよい」「面白い本、専門的な本、知らない本が沢山あって良い」などの意見をいただきました。

八戸ブックセンターは、市内の民間書店とはできるだけ取扱いが重ならないような選書を心がけています。

今後も、市内の民間書店を補完しつつ、地方都市ではあまり見かけないような本と出会えるよう、様々なジャンルの本の選書に取り組んでいきます。

本を「読む」「書く」ことについてのアンケート③　（八戸市ブックセンター）

«新たな取組の開始»

小説や漫画などを「書いたことがある」「書いてみたい」と答えた方に、八戸ブックセンターでは、作家の人などを講師に招き、本の書き方などを体験できるワークショップを開催しているが、参加したいかについて聞いたところ、「参加したい」と答えた人が30人（81.1%）、「参加したくない」と答えた人が７人（18.9%）でした。

八戸ブックセンターは、書く人を増やす取組の一つとして、「執筆・出版ワークショップ」など、特に若い方向けの体験型企画を実施しています。

今後も、若者に人気のある漫画など、興味関心のあるジャンルを幅広く捉え、書き方講座やトークイベントの実施を検討していきます。

«方向性や計画などへの反映»

八戸ブックセンターでは、トークイベントやワークショップなど、本に親しめるようなイベントを開催しています。どんなイベントがあれば八戸ブックセンターに行ってみたいと思うかについて聞いたところ、「有名作家などのトークイベント、サイン会」、「本を書く・つくるワークショップや講座」、「ビブリオバトル」などの意見をいただきました。

八戸ブックセンターでは、有名な作家等、本に関係する方のトークイベントやワークショップなどのほか、様々な施設や団体、市民の方々と一緒に、ＺＩＮＥを作るワークショップやビブリオバトルなど、本に親しむ多くの機会を提供しています。

今後も、学生のみなさんへの広報活動に努めながら、多くの方と連携してイベントを実施していきます。

(仮称)はちのへ創生総合戦略の策定に係るアンケート①　（政策推進課）

八戸市の人口を増やすためには、どのような策が必要だと思うかという質問に対して、特に「子育て支援」や「魅力的な情報の発信、八戸市のPR」という回答を多数いただきました。

«計画への反映»

人口減少の進行を抑制するためには、子育て支援の充実などの自然減対策や当市の魅力の情報発信などの社会減対策の両方へアプローチする必要があります。

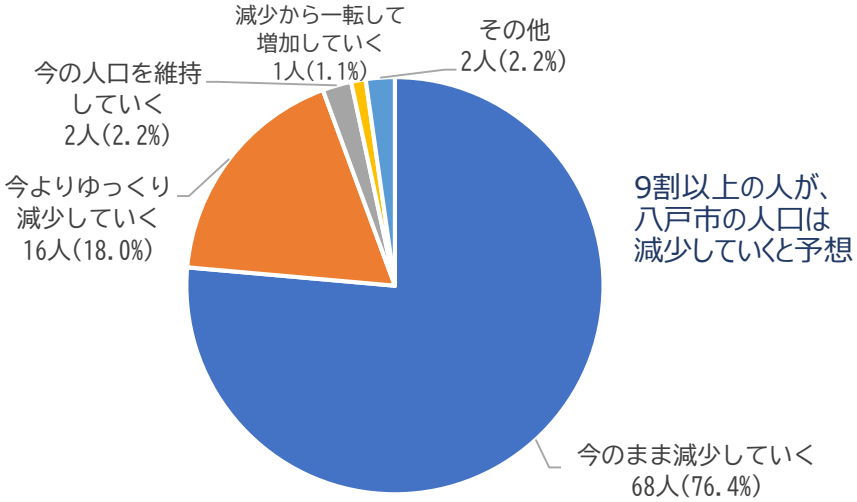
子育て支援

基本目標３
施策２「安心して子どもを産み育てられる環境の整備」
個別施策「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の充実」

魅力的な情報の発信、八戸市のPR

基本目標１
施策３「地元とのつながりの拡大」
個別施策「地域の魅力の情報発信の充実」

問　八戸市の人口は、今後どのように変化していくと思いますか。



9割以上の人が、八戸市の人口は減少していくと予想

各個別施策に基づき、子育て環境の充実やターゲットを絞った情報発信など具体的な事業の推進を図っていきます。

(仮称)はちのへ創生総合戦略の策定に係るアンケート②　（政策推進課）

高校卒業後の進路について、大学・短大等への進学及び就職すると回答した人のうち、進学・就職希望先を聞いたところ、八戸市内は9.6%にとどまり、県外と答えた人は約70%となりました。
また、その理由を伺ったところ、県内で入りたい・学びたいと思える学校がない、県外に魅力ある仕事や施設が多いという理由があげられました。

学びたい、働きたいと希望する場所が県外にしかない場合もありますが、地元定着を促進するためには、当市の高等教育機関や地元企業等との連携した取組が必要です。

県外や海外の人に八戸市のどんなことを紹介するか聞いたところ、種差海岸などの自然、三社大祭、えんぶりなど文化、のほか、海産物をはじめとした食に関する内容を多くいただきました。

当市の有する自然や文化、食等の地域資源を有効に活用することで、地元定着の促進や、付加価値の創出につながります。

«計画への反映»

地元企業を知る機会の創出などに係る施策を展開していきます。

基本目標２
施策２「しごとと人をつなげる」
個別施策「人材の確保・育成の促進」

基本目標１
施策２「選ばれるまちをつくる」
個別施策「高等教育機関の魅力創出」
個別施策「文化芸術・スポーツ・観光の振興」

地域の魅力向上や観光産業の稼ぐ力の強化を図っていきます。

基本目標２
施策１「地域の活力を生むしごとの基盤強化」
個別施策「観光産業の高付加価値化」

(仮称)はちのへ創生総合戦略の策定に係るアンケート③　（政策推進課）

問　八戸市がこれからどんなまちになったらいいと思うか

「新しい人が事業を起こしやすい市」という意見をいただきました。

新たに創業・起業または新事業を展開する事業者に対して支援を行うことで、地域産業の裾野拡大につながります。

«計画への反映»

創業・起業支援や新事業の展開に係る補助事業などを展開していきます。

基本目標２
施策３「しごとの場や機会を創出する」
個別施策「事業者や若者のチャレンジへの支援」

「交通が整備され、常に移動がしやすい町」、「交通手段に困らないまち」、「中心街までのアクセスがいいまち」という意見をいただきました。

人口減少下において、八戸圏域住民の足となる公共交通は維持確保する必要があります。

データを活用した検証などにより利便性と持続性の高い公共交通ネットワークの構築に向けた取組を推進します。

基本目標３
施策３「快適な生活環境の維持」
個別施策「多様な交通手段による交通ネットワークの維持」

「令和６年八戸市10大ニュース」アンケート　（広報統計課）

«取組の改善»

アンケートの実施方法について意見をいただきました。

ニュースの内容、表現、言葉づかいなどが難しく答えづらかった。

→ 分かりやすい表現、言葉づかいでニュースの解説を作成し、アンケートフォームとは別の手段でお知らせできるように検討します。

「こどもモニター10大ニュース」の番外編があっても面白い。

→ アンケートフォームの中で自由記述欄を設定すれば対応できると思いますが、回答をまとめた後の発表方法とあわせて検討します。

スマホの画面だとアンケート画面が見づらい。また、選択肢が多くて答えづらい。

→ 今回、ひとつのアンケートフォームで、10大ニュースの候補を提示し、回答してもらう形でアンケートを行いました。
ほかにも同様の意見をたくさんいただきましたので、令和７年度からは、10大ニュースの候補と回答を分けて見やすくするなど、回答しやすい方法を検討します。

八戸市内の遊ぶ場所に関するアンケート①（八戸市こどもまちなかIT部）

«方向性や計画などへの反映»

普段よく行く遊び場所及び好きな遊び場所に「自宅近くの公園」や「こどもの国」といった意見が多数ありました。

市民の皆様に多く利用していただいていることが分かったと同時に、公園を安全安心に利用していただくために、適切な維持管理が最も重要であることを改めて実感いたしました。
（公園緑地課）

「立地条件やバスなどの交通環境を改善してほしい」といった意見がありました。

バス事業は、利用者が減少しているほか、物価高騰による経費の増加や運転士不足など、厳しい経営環境となっていますが、遊ぶ場所の立地条件とバスなどの交通環境の改善については、「ハチカ」のデータを活用しながら、より利用しやすいダイヤを編成することに努めます。
（交通部）

«実現が難しいもの»

映画館を希望する意見が多く出ておりました。

映画館は、興行場としての側面を持ち合わせており、民間事業者において経営上の観点から立地等を判断するものであると考えていますが、今後の検討にあたって参考とします。
（文化創造推進課）

八戸市内の遊ぶ場所に関するアンケート②（八戸市こどもまちなかIT部）

八戸市にどんなイベントが増えたら嬉しいか
質問したところ、次の意見がありました

«方向性や計画などへの反映»

まちの空いているスペースへ飲食店が出店できるようにしてほしい

→ 現在、「中心街ストリートデザイン事業」において、歩道などを使って、日常的に出店できるようなスペースづくりとルールづくりを進めています。（まちづくり推進課）

「音楽フェス」や「グルメイベント」を増やしてほしい

→ はっちでは、令和6年度より「はっちFRIDAY LIVE！」を実施しています。歌・バンド・演奏・ダンス等の出演者を公募し、ライブパフォーマンスを実施。学生優先の特別枠も設けていますので、多くの方の発表の場として活用してもらえるよう周知していきます。（はっち）

美術館ではこれまでも、広場を活用した音楽イベントや、八戸三社大祭に合わせた露店・キッチンカーの出店を行い、賑わい創出に取り組んできました。今後は、こどもたちがより楽しめるような出店構成を意識しながら、企画を進めていきます。（美術館）

三社大祭のポスターを小学生の部、中高生の部にわけて募集して、各部の最優秀賞はポスターにして八戸市内に貼る、それ以外の応募作品は美術館に展示するのはどうか

→ 八戸三社大祭や八戸えんぶりのポスターを、たくさんの子どもの目線で作ってもらうことは、お祭りに興味をもってもらうきっかけにつながる可能性があると思いました。今後、市内のお祭り機運醸成に役立てる方法として、お祭りの事務局とも共有し、参考にしていきます。（観光課）